

青少年の自立を 支える会 通信

発行/青少年の自立を支える会
所在地/宇都宮市南大通り4-2-18
☎・FAX 028(651)0161
発行責任者/伊達悦子
編集責任者/福田雅章

第14号 平成12年8月1日

『青少年の自立を支える会』に入会して

～自分を大切に、そして相手を大切に～

青少年の自立を支える会副理事長 石島 京子

私は、伊達先生からの「青少年の自立を支える会」入会要請と『通信』をいただき、この会のあることを初めて知り、直ぐ入会させていただきました。平成9年頃だったでしょうか。

『星の家だより』や、何回かのセミナー・役員会等に出席させていただいて、児童自立援助の理念に基づく「星の家」の援助事業の重要さが、やっとわかりかけて参りました。そして、中心になって活動なさっていらっしゃる星様ご夫妻、それを支えるスタッフの皆さんの情熱には、ほとほと感心させられております。本当に皆さんご苦労様です。この殺伐とした現代を考えると、一つの光明を見出した思いが致します。

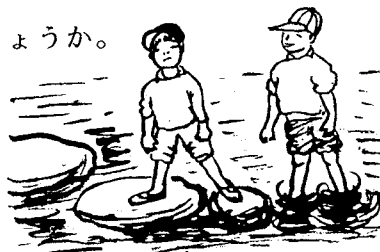
私は財団法人（現在は社会福祉法人）すぎの芽会の仕事に永いこと関わってまいりました。この法人は知的障害者の施設を運営しております。知的障害とは、色々な原因で多くは読み書き・計算が不自由です。医療的にも治療は難しいとされていますが、適切な教育と指導によっては社会自立も可能とされています。

この様な方々が必要に応じて利用されている施設です。養護学校を卒業したばかりの方から、60歳代の男女約160名の方が通所或いは入所施設を利用されています。

重い方には、日常生活の基本的なこと、食事・排泄等が困難な方もおりますので、身の回り一切をお手伝いし、毎日が共に生きる幸せを分け合っている生活です。軽い方にはそれぞれの能力に応じて、箱折り、玩具の袋詰め、野菜や草花づくり、織り物等職員と共に楽しみながら作業を行っています。職員の皆さんは、この世に生ある限りは意義ある人生が送れるよう、どのような利用者にも僅かながらも自立の可能性があることを信じて、今日から明日へと希望を持って努力をして居ります。

以上障害者の立場から考えますと、星の家の皆さんは読み書き・計算出来、羨ましくさえ思います。

人それぞれ与えられた命を生きぬかねばなりません。自分を大切に、そして人に対して思いやりの心を大切にすることが大事なのではないでしょうか。



～私はこういう気持ちで「青少年の自立を支える会」「星の家」を見守っています～

◀◎会員の声◎▶特集

～そして絆は深まり、つながりが生まれる～

子どもの居場所を創り出す

矢野ひろみ

たまたま読んだ神戸新聞に、施設を出た子どもたちの行き場のないこと、その子どもたちの居場所として小さな家を市民で開いていることが連載されていた。私はその連載を読んだ頃、近所の星さん家に遊びに行くと、そんな子どもと一緒に暮らしていた。「星さん個人だけでなく、みんなで支える必要があるんじゃないか」と夫はいつも言っていた。

私も「栃木にも子どもの居場所がなくちゃね」と思い始めた。

大きな家の空き家があると、人づてに子どもたちの居場所として貸してくれないかと聞いてまわった。しかし、どこもいつもつれない返事で、しばらくしてそれらの家は取り壊され、駐車場になっていた。さびしい話だ。

そんな時、すばらしい大家さんが名乗り出てくれて「星の家」を開けることになった。そして、たくさんの方々が集まり、みんなで支えていくことになった。1人1人みんな違ったものを背負いながら「星の家」にやってくる子ども。縁のあった子どもに一人でも多く幸せになってほしい。

そう思って支える1人に入れてもらっている。

青少年の自立を支える会に思うこと

豊岡 昭子（養徳園書記）

児童養護施設「養徳園」に勤めており、この青少年の自立を支える会に出会う事となりました。養徳園の園長である福田雅章氏が事務局長という事もあり入会した次第です。

星の家の発足にあたり多くの方がその趣旨に賛同しました。私の勤めている児童養護施設においても他人事とは思えず、むしろ積極的にかかわっていきたくて考えています。

児童養護施設において生活できるのはおおよそ18歳までです。高校を卒業し、社会に巣立っていきますが、その後の生活には幾つもの困難が待ち受けています。そんな中、仕事をやめ、住まいを変え、音信不通になる子供がたくさんいます。彼らにとって安住の地は自らみつけるしかありません。そんな時、この「星の家」ができたという事は、子供達にとっても私達にとっても大きな安心です。

星の家の生活にはまた大変なものがあると思います。しかし、星さん御一家やたくさんの方々のボランティアの方々と生活には、あたたかく、力強ささえ感じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、この青少年の自立を支える会の輪がますます広がることを心より願っています。

バレンタインデー、私は「星の家」を訪ねる。そこには、何度か電話をくれた卒園生が3人居た。

“寒空の中行く所がない”と電話をくれた。

“荷物を運びたい”と電話をくれた。

“今すぐ会いたい、何も食べていない”と電話をくれた。私の力では何も出来なかった。そしてすべてお願いしている。訪ねた時に会った1人は自立し、こちらを巣立って行った子だったけど、熱を出して病院へ行き、そして星の家に居た。寝転がって楽しそうにテレビを見ている。まだ本調子ではないにしても明るい様子だ。有り難いと思いました。

そのうちに、男の子と女の子のペアが帰って来て、ほっかほかのご飯とおみそ汁と大きめの煮物が子供達の前に並ぶ。すると美帆さんが明るく大きな声で、「今日はバレンタインデー、愛を込めて」と男の子達1人1人にチョコを心を込め渡していました。

目の前の風景を見ながら温かいコーヒーを頂き、この子達が今この時を大切に、この巡り会い・チャンスを大切にしてほしいと願わずにはいられませんでした。

この団欒が常ではなく、やはり険しく荒れる時もあるようで、喧嘩・家出などもあり、苦労は図り知れません。

“大人の言うようには動けない子供達”

“険しい道を選んでしまう子供達”

「乗り越えてほしい」「元気であってほしい」「人に迷惑をかけないでほしい」そう願っているのです。

星の家の暖かさに感謝して、安らかな心で園（いえ）に帰る。“私もがんばろう”そう思いました。

□ □ ▽ △ ▽ △ ▽ △ ▽

応援しています

寺崎恵美子

私は3月まで6年間栃木県婦人相談に勤務していましたが、相談や一時保護の中には、十代の少女も含まれていました。

中学を卒業し、一度社会に出たその子たちは、児童相談所の対象ではないと、本人の意志でなくても保護しなくてはならないこともありました。大人になりきれない傷ついた少女たちに向かい合う時、ここはこの子たちの来る所ではない、この時期を受け止めてくれる人たちが必要だと思っていました。

そんな時、星さんから「支える会」の話があったのです。巣立ちがうまくできない不器用な子、虐待を受けて大人になれない子、施設を出ても自分の生き方を見つけれないでさまよっている子たちの心の拠りどころができたことを嬉しく思っています。

今は即戦力になりませんが、スタッフの皆様に感謝しつつ、応援していきたいと思えます。



(イラストは石田美禰子
岡ともふみ「ほんのすしの神に
近い部分」より)

「なぜ、星の家が好きなのかって？」

平木千紗子（NPO法人ひばり会）

それはとても自分の心に近いからでしょう。若いころの寂しさや空しさは辛かったし、誰でもどこでもいいから寄る人や寄る場が欲しかった。この歳になってもそんな思いは未だに残っている。

そしてそんな白い季節に彩りを付け、息を吹き返させてくれたのは決して家族ではなかった。赤の他人だった。そんな大きな借りが私にはある。そんな借りはやはり誰かに返して行かなければ人生の収支が合わない。星の家はそこに住む子どもたちのものと言うより私にとってはまさに私のもの、心の駆け込み場なのです。

でもきっと私は駆け込まない。いつでもそこにあるから。あるというだけで私は頑張れる。そんな意味で星の家にいる子どもたちに感謝している。あなたたちがいるおかげで「私の星の家」があるんだもの。会ったこと無いけどみんなジグザグしながら頑張ろうね！！

あ、そうそうスタッフの皆さんもね。これからもよろしく。飾りの無い本音の会報、いつも楽しく読まさせていただきます。



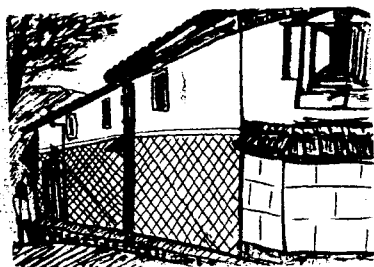
第3回星の家まつりへのお誘いと、バザー用の物品提供のお願い

宇都宮市総合コミュニティセンターにて、10月29日（日）に開催を予定しています。
バザー用の物品の提供をよろしくお願ひします。

《ご連絡》

去る5月13日（土）栃木県社会福祉教育センターにて、特定非営利活動法人「青少年の自立を支える会」『平成12年度定期総会』が開催され、無事終了いたしました。

どうもありがとうございました。



支援の輪（2000年7月31日現在）

会員数	667名
会費・寄付	151,7351円(4月～7月)

青少年の自立を支える会 事務局

〒321-0963 宇都宮市南大通り4-2-18

◇◇◇◇◆◆◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 自立援助ホーム「星の家」内TEL・FAX028(651)0161

★会員募集中♪です。1口5,000円 [郵便為替/宇都宮00140-3-366972 名義/青少年の自立を支える会]

★スタッフ・ボランティア募集！どんなことでもお手伝いいただける方、お待ちしております。